

との相違点はどこにあるか？ 第1報との相違点を明確に御回答願いたい。

答：川平建次郎 渡辺克司 第1報は retrospective な調査検討であったのに比べ、第2報では prospective な応用であったことと的中の程度を示したことにある。

*

14. 教室の甲状腺炎症例について

中村郁夫 吉窪穂積(熊本大学 放射線科)

われわれは昭和43年12月までに確実に診断しえた27例についてシンチグラムを中心に検討したので、その概要について報告する。

慢性甲状腺炎20例、悪急性甲状腺7例で、西川の分類に従うと、菲薄影を伴う欠損は慢性で7例、悪急性で2例、欠損を思わせる菲薄影は慢性のみで3例、両側性肥大を示す症例では、菲薄影を示すものは慢性にて2例、悪急性では1例、肥大像の他著変なしは慢性では6例、悪急性では2例に認められた。

その他、片側性患側肥大菲薄影を認める症例がそれぞれ1例ずつみられた。片側性健側肥大一部欠損が慢性にて1例認められた。

いわゆる“まだら像”を呈するものが慢性では35%にみられた。狭部の肥大が特に著明で甲状腺の陰影が不鮮明な症例は30%に認められた。その他慢性では¹³¹I摂取率は正常以上、トリオソルブは正常で γ globulin、血沈に異常症例多数であった。

*

15. ¹³¹I MAAによる放射線肺障害出現に関する検討

有川憲蔵 篠原慎治(鹿児島大学 放射線科)

〔目的および方法〕種々な疾患に際して胸部に対し放射線照射が施行される場合、肺放射線症の出現をみる場合が少なくないが、この出現を早期に把握するため今回は主として術後乳癌患者について術後照射終了時より経時的にX線像を観察すると共に同時に¹³¹I MAAによる左右上肺野の肺動脈血流比を算出して両者を対比検討した。〔結果〕(1)経時的に肺動脈血流比を対比検討してみると照射側上肺野の血流比は非照射側上肺野に比して照射終了後漸次減少の傾向にある。(2)経時的観察にてX線像上に肺放射線症を認めた症例では照射側上肺野の肺動脈血流比は照射後3カ月以内に50%減少している例に多く認めた。(3)照射終了後X線所見の出現に先立

って約2週間前にすでに照射側上肺野の肺血流比が50%以下の減少を認めた症例もある。これらの結果より放射線肺障害の出現を¹³¹I MAAによる、被照射側血流比を検討することにより早期にこれを予測しようと考えたので報告した。

*

16. ^{99m}Tcの各種臓器スキャンへの応用

樋口武彦 渡辺克司 川平建次郎 吉村 恵
(対九州大学 放射線科)

^{99m}Tcはenergyが140kVと低く、 β 線を伴わず、半減期が短く、従って被曝線量が少ないので、大量投与が可能となり、スキャンに用いるに適した核種である。更に、単一核種にて各種臓器の検査に用いられ、milkingにより必要に応じ度々とり出せる利点も有している。通常、脳スキャンに広く用いられているが、あまり行なわれていない脳室、耳下腺、顎下腺、甲状腺、肝、胃等のスキャンに^{99m}Tcを用いて検査を行なったので、その症例について報告する。えられたスキャン像は明瞭であり、検査も簡単であるから、これらの方面への応用も活用されてよいと考えられるが、その臨床的意義については、今後、なお、検討の必要があると思われる。

質問：有川憲蔵(塩尻島大学 放射線科) 1) 甲状腺シンチグラムにて¹³¹Iより^{99m}Tcを用いた方が描出能が良い理由は

2) ^{99m}Tcを用いて胃シンチグラムのとれる理由は、

答：樋口武彦 1) ^{99m}Tcを用いた甲状腺シンチグラムは¹³¹Iを用いたものに比較して周囲にぼけていく状態が良くわかる、また¹³¹I up takeが低い場合で¹³¹Iでシンチグラムがとれない場合でも^{99m}Tcを用いた場合はback groundは高いが、甲状腺が良く描記される。

Re-scanすると、明瞭に描記できる。一般的にいえることだが、甲状腺の場合も、静注後、すぐscanできる。¹³¹Iによる場合は投与後scanまでに時間が必要)。¹³¹Iの方が甲状腺のup takeの面では^{99m}Tcにくらべ高いが^{99m}Tcは大量投与ができるということが甲状腺のより明瞭なシンチグラムがえられる原因と考える。

2) ^{99m}Tcにより胃シンチグラムのとれるメカニズムについては^{99m}Tc-pertechnateは代謝の面で¹³¹Iに似た点があり胃液に分泌されるものと考え、

質問：村上晃一(九州大学中央放射線科) 1) ^{99m}Tcの排泄路は？

2) ^{99m}Tc generatorで洗い出しの際の他核種によるcontaminationに関し、どのようなcheckを行なって